富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山県におけるツキノワグマによる2014年秋のカキノキ利用状況

著者	南部 久男, 白石 俊明, 後藤 優介
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	40
ページ	97-98
発行年	2016-06-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1043

短　　報

富山県におけるツキノワグマによる2014年秋のカキノキ利用状況＊

南部　久男[1)]，白石　俊明[2)]，後藤　優介[3)]

[1)]富山市科学博物館　939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
[2)]富山県立山カルデラ砂防博物館
930-1405 中新川郡立山町芦峅寺字ブナ坂68
[3)]ミュージアムパーク茨城県自然博物館
306-0622 茨城県坂東市大崎700

Use of the Persimmon trees by Japanese black bear in Toyama Prefecture, during autumn in 2014

Hisao Nambu[1)], Toshiaki Shiraisi[2)] and Yusuke Goto[3)]

[1)]Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan
[2)]Tateyama Caldera Sabo Museum, 68, Bunazaka, Ashikuraji, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan
[3)]Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando-City, Ibaraki 306-0622, Japan

はじめに

富山県では秋のツキノワグマの大量出没時には山麓部を中心に多くのカキノキにクマの爪痕が確認され，カキノキを高い割合で利用していることが報告されている（富山クマ緊急調査グループ他，2005；南部，2011；南部・白石，2012；後藤・南部，2012）．このため，筆者らは，2010年から県内山麓部や河川流域の人里周辺でのクマの出没状況を知るための基礎資料として2010年からカキノキに残るツメ痕を調査し，報告してきた（後藤・南部，2012，2013，2015）．今回，2014年秋のカキの木へのクマの痕跡（爪痕）の調査結果を報告する．

調査地および方法

調査は，後藤・南部（2012）の調査地点である県内の10河川流域の山麓部や集落周辺など19地域で行った（図１，表1）．原則として2010年秋の利用状況を確認した調査地点のカキの木について調査を行ったが，調査本数は増減がある．

調査日は2014年秋のツキノワグマによる爪痕形成が終わると考えられる2014年11月下旬から2015年秋の爪痕形成が始まる前（2015年8月）である．カキの木の幹上に残る2014年秋につけられた爪痕の有無を目視により確認した．

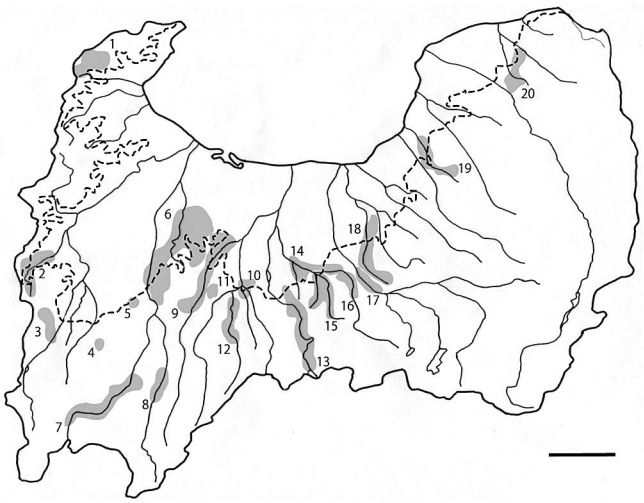


図1 富山県内の各調査地域（網掛け部分）
番号は表1に対応する．図の点線は標高100mライン．バーは10km.

結果及び考察

各調査地点で2014年秋のツキノワグマの爪痕があったカキノキの本数と割合を表１に記す．

19カ所で計901本調査した内，73本（8.1％）に2014年秋の爪痕がみられた．19地点のうち，８地点で2014年秋の爪痕は見られず，６地点で爪痕のあるカキノキの割合は10％未満であった．５地点でその割合は10％を越し，10～25％が3地点，40～50％の地域は２地点（神通川本流上流と黒川）であった．

各調査地における2014年秋と2010～2013年秋の結果（後藤・南部，2012，2013，2015）を比較する．なお，2010年秋は大量出没年で，2011～2013年は普通年であった（日本クマネットワーク，2014；富山県，2016）．2010年秋には，小矢部川，常願寺川，栃津川，角川の各流域では50％を超える地点があった．2011年はいずれの流域でも全く爪痕はみられなかった．2012年秋は大部分が０～10％の範囲内で，１地点だけが10～20％であった．2013年秋は大部分が０～10％以内で，３地点が12～22％であった．

今回の調査により2014年秋は一部の地域（神通川上

＊富山市科学博物館研究業績第500号

流，黒川上流）で，爪痕のある割合が高かった．2014年秋は，全県的にはクマの出没は少なかったものの，一部の地域，神通川の上流域や小矢部川水系山田川流域（南砺市城端地域）でクマの出没が多かったことが知られ（南部，2015；後藤・南部，2015），今回の結果もこのことを反映したものと考えられる．

表1　2014年秋のカキの木に残るツキノワグマの爪跡の割合

調査地	調査本数	爪痕の有無 2014秋	割合
1余川川	21	0	0%
2渋江川	17	0	0%
小矢部川流域			
3福光地域	62	2	3.2%
*4城端地域	−	−	
庄川流域（合計）	237	21	8.9%
5井波地域	13	3	23.1%
6庄川	190	16	8.4%
7五箇山地域	20	2	10.0%
8利賀川	14	0	0%
神通川流域（合計）	230	38	16.5%
9山田川	97	7	7.2%
10井田川	32	0	0%
11室牧川	6	1	16.7%
12野積川	29	0	0%
13神通川本流上流域	66	30	45.5%
熊野川流域（合計）	183	10	5.5%
14熊野川	133	2	1.5%
15熊野川上流域	31	0	0%
16黒川	19	8	42.1%
17常願寺川	17	0	0%
18栃津川	39	1	2.6%
19角川	51	0	0%
20舟川山麓部	44	1	2.3%
計	901	73	8.1%

＊城端地域の調査は行わなかった．

文献

後藤優介・南部久男，2012．富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について．富山の生物，51：93-100．

後藤優介・南部久男，2013．富山県におけるツキノワグマによる2011年秋のカキノキ利用状況．富山市科学博物館研究報告，37：115-116．

後藤優介・南部久男，2015．富山県におけるツキノワグマによる2012〜2013年秋のカキノキ利用状況．富山市科学博物館研究報告，39：95-96．

南部久男・白石俊明，2012．富山県におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡．富山市科学博物館研究報告，36：9-12．

南部久男．2011．富山市におけるツキノワグマの出没記録（2010年）．富山市科学博物館研究報告，34：177-192．

南部久男．2015．富山市におけるツキノワグマの出没記録（2014年）．富山市科学博物館研究報告，39：141-152．

日本クマネットワーク．2014．「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡縮の現状把握と軋轢防止および危機個体群回復のための支援事業」報告書

富山県，2016．ツキノワグマ目撃痕跡情報．http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00015081/00848005.pdf．2016年4月13日閲覧．

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク（JBN），2005．富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告書．pp．112+CD．